（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（　熊本県立翔陽高等　）学校　令和３年度（２０２１年度）学校評価表

１　学校教育目標
心豊かで活力にあふれた個性ある生徒を育成し、将来、世界で活躍できるグローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成を目指す。

２　本年度の重点目標
（１）　グローバルな視点と能力を身につけた、地域に貢献できる人材を育成する。 （２）　進路目標達成のためにキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。 （３）　全ての教育活動をとおして規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。 （４）　人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にする生徒を育成する。

３　自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○総合学科らしい教育課程の編成 ○進路選択に合わせた適切な科目選択	○教務・総合学科研究部が連携した教育課程検討委員会の実施 ○授業見学等をとおした科目選択ガイダンスの充実	A	○総合学科にふさわしい学習評価の評価規準を作成した。 ○進路に即したカリキュラムを委員会の中で検討した。今後、実施における課題を洗い出す必要がある ○コロナ禍の影響で従来どおりのガイダンスは行えなかったのが、動画を作成・視聴させるなど工夫した。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○学校の取組や学校の最新情報の発信	○ＩＣＴ運営部（新設） ○広報・ホームページ委員会、総務部を中心に、各部・各学科・各年次が連携した学校の最新情報の計画的な発信	A	○ホームページやＳＮＳを活用した情報発信が活発にできた。 ○コロナ禍における、分かりやすく訴求力のある情報発信を検討する。
			○地域企業へ本校教育活動の発信	○菊池地域企業推進プロジェクト、地域企業との情報交換会、地域工場見学会等の実施	B	○地域企業説明会、工場見学会を、企業説明の動画配信の視聴など、感染防止対策を講じながら実施した。
	働き方改革	セルフマネジメントの育成	○時間外勤務時間４５時間以内 ○年次有給休暇年１２日以上の取得	○定時退勤日、一斉休業日の設定 ○仕事の棚おろし表作成 ○時間外業務管理 ○定期的な職員への声かけ	B	○毎週水曜日を定時退勤日、８月１２日から８月１５日の４日間を一斉休業日として設定した。 ○棚卸し表を作成し、見通しを持った業務遂行及び業務改善を実施した。 ○正規の勤務時間以外の従事時間が多い職員に対しては、管理職の声かけと必要に応じた産業医面談を確実に実施した。

学力向上	学力の向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究	○教科横断的な視点に立った授業の推進 ○ＩＣＴ機器を効果的に用いた授業、オンライン授業の研究 ○指導と評価の一体化の推進	○授業研究プロジェクトチームによる職員研修の充実 ○外部講師の招聘、校内研修の実施 ○効果的な評価の在り方（ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等）の研究 ○観点別評価の研究・試行	A	○８月と１０月に研修を実施し、新学習指導要領が目指すものを全職員に周知した。また、授業評価を本校の目指す資質・能力を踏まえた内容で実施した。今後、検証を行い、課題の洗い出しと改善を推進する。 ○ICT 運営部主催のミニ研修会や ICT 支援員のサポートにより授業での ICT の効果的な活用が行われた。オンライン授業における対話的な授業の実施の検証・改善を進める。 ○学習指導と評価の改善とを両輪で進めることの重要性を周知した。各教科において令和４年度の年間指導と評価の計画を作成した。
			○公開授業校内参観率の向上 ○外部からの授業参加者数の増加	○研修立案 ○対外的行事に合わせた授業参観の企画	B	○年３回の校内公開授業週間や指導教諭の授業参観を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響で２回の実施となった。指導教諭の公開授業はオンラインで実施した。
		学習習慣の確立	○家庭学習１時間＋α ○質の高い学習（計画・実践）の定着 ○学習のＰＤＣＡサイクルづくり	○学習時間調査の実施、結果分析、改善策の提案・実行 ○『教務通信』による学習アドバイス ○スコラ手帳の効果的活用法の提示	B	○調査項目を教科別に細分化し、調査結果を各教科にフィードバックすることができた。 ○学習時間調査の結果、事前に計画を立てて学習に臨んだ生徒は全体の86.2%、計画どおりに学習に取り組めた生徒が全体の82.9%であった。今後、ＰＤＣＡサイクルにおいて効果的にＣＡに取り組ませる方策を検討する。
キャリア教育	キャリア教育の推進	職業観の育成	○「働くこと」に対する理解を深める ○自己理解の推進	○外部講師による研修会等の実施 ○教材エナジードの積極的活用 ○外部の適性診断テストを活用による自己理解の促進	A	○生徒向け講話を６回、職員向け講話を２回実施した。 ○将来を考える機会を確保し、生徒の考えを表現しようとする姿勢は高まった。 ○キャリア教育の第一歩としての自己理解及び職業理解が深まった。

		キャリア教育のシステム化	○科目「産業社会と人間」の充実 ○インターンシップの充実 ○３年次総合的な探究の時間の充実	○自らの進路選択との関係性を明確にした職業研究プロジェクトの実施 ○企業開拓及び全職員の協力による事前事後指導の充実 ○幅広い分野とのつながりを持った探究活動の実施	A	○調査から発表会、振り返りまでを実施できた。今後は他の教科と繋げる取組について検討する。 ○コロナ禍ではあったが１１０の事業所に協力をいただき実施した。 ○コロナ禍で実現には至らなかったが、ポスターセッション形式で全員が発表できる状況になった。
	進路保障	進路目標の達成	○就職目標進路目標の１００％達成 県内就職率８５％以上 公務員合格率６５％以上 ○進学目標第１次合格率９０％ ○故郷熊本を支える地方創生への積極的推進 ○高い目標へ挑戦及び個性を生かした推薦入試への挑戦	○目標設定や実現のための面談の充実 ○全職員による面接指導の充実 ○専門系列と２・３年次との情報共有 ○オンラインへの対応 ○作文・小論文指導の充実 ○関係外部機関（大津町役場、県北本部）との連携 ○コロナ禍における状況の情報共有及び組織的対応 ○総合学科研究部との連携の強化 ○個性を活かした大学推薦入試への挑戦	A	○就職目標 １００％達成。県内就職率は８１％であった。地域企業には、１３社２５名が内定した。 ○進学目標達成 １次合格率 ９８．７％ ○公務員目標 ６５％以上 ９２％達成 ○関係諸機関との連携 ・大津町企業連絡協議会及び大津町役場 関係機関と調整し、企業説明会を分散会場及びオンライン形式で本校において実施した。
		早期離職・上級学校退学の防止	○適応指導の充実 ○進学就職内定者指導の実施	○熊本しごとコーディネーターとの面談でミスマッチの無い受験 ○生徒の目線にたった離職・退学防止のための年次と連携したＬＨＲ指導 ○オープンキャンパスへの参加推進 ○上級学校訪問等の充実 ○保護者の理解を深めるため、年次保護者会等を実施（ＨＰの活用）	B	○令和３年３月卒業者の早期離職者が５名。うち、３名は企業倒産によるもの。 ○５月にキャリアサポートによる面談を実施した。２年次の１月は新型コロナウイルス感染症の影響により延期している。 ○応募前職場見学や学校訪問等については、オンライン等の実施に対応した。 ○保護者会については、分散会場で実施するなど、感染防止対策を講じて実施した。

生徒指導	生活指導	基本的生活習慣の確立	○整容指導の徹底 ○始業時間の厳守 ○挨拶の徹底 ○規範意識の向上 ○特別指導件数１０件以下 ○無断アルバイトの根絶 ○盗難件数０ ○二重ロック率１００％	○全職員の共通理解での指導の徹底 ○自ら考えさせる容儀指導・生活指導の充実 ○問題行動の未然防止の取組の充実 ○家庭への連絡・連携の充実 ○交通委員会による啓発と点検 ○年間をとおした登校指導	B	○指導に対する基準の共通理解に向けた研修を実施。 ○学校が目指す人間像が進路に向けても大切になる認識を徹底させた。 ○問題行動の未然に防ぐために常に声かけや目配り、情報共有を行った。 ○概ね各家庭との連携がとれた。今後も、一層の連携を進め、コロナ禍で不安定な子供たちに寄り添った対応を進める。 ○交通に関しては事故や外部からの通報が多く、説諭等による啓発に加え、巡回指導や交通委員による活動を実施した。 ○登校指導は週に２回程度実施した。時間ぎりぎりで登校する生徒への声かけや年次との情報共有を行った。
		自主自立の育成	○生徒会活動の活性化 ○さまざまな活動への意欲的参加	○生徒総会の充実 ○体育大会・文化祭等の学校行事の充実	A	○生徒総会では休校等があり協議を充分にできなかったが、校則の見直し等について、生徒会執行部で話し合いを持ち、生徒自らが考える機会を持った。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点で生徒自らが考え、工夫して実施し、思いの詰まった行事にすることができた。 ○生徒主体で校則を見直すことができた。
	交通安全指導	交通安全教育の充実	○交通安全に対する意識の向上 ○重大事故件数０	○交通安全講話・通学方法別集会の実施 ○単車通学生への実技講習及び安全指導（年３回） ○自転車通学生への安全指導の実施 ○危険予知能力を向上させるためのＬＨＲの実施	B	○講話や集会は、感染症対策を講じながら実施した。しかし、地域からの交通マナーの苦情や交通事故が多かったため内容の精査と見直しを行う。 ○単車通学生への実技講習会は実施できたが事故や苦情も寄せられており、生徒の意識向上の取組を進める。 ○自転車通学生の事故で重大な事故につながるものがあった。登校時の地域からの苦情が多く、安全指導については年間を通じた通学路での指導を行う。

						○今後、危険予知能力を向上させるLHRが実施を実施する。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○積極的なボランティアへの参加	○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集	B	○新型コロナウイルス感染症の影響で外部からの依頼が少なく、積極的に活動できなかった。今後状況を見極めながら地域の奉仕活動を推進する。
	部活動の推進	心身の健全育成	○部活動加入の推奨 ○自尊感情の育成 ○奉仕精神の育成	○部活動見学会の実施等により、加入率８０％ ○キャリア教育との連携 ○部活動実績のＨＰでの紹介	B	○入学時から活発に活動が実施できない状況にあったので加入率は８０％であった。しかし、各部活動とも活発に活動している。 ○現在、１年次生部活動への加入が半分程度になっている。今後生徒会との連携や、進路指導部による事業所が求める人材像についての情報提供を行い、部活動とおした人間力の向上も進路に向けても有益であることを周知していく。 ○ＨＰでの外部への広報に加え、学校内での広報活動も工夫して行う。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	○人権問題についての正しい理解と認識の深化 ○身の回りにある不条理な差別を見抜き、正しく行動できる力の育成	○定期的な職員研修の実施と校外研修への積極的な参加 ○生徒人権集会、人権教育ＬＨＲ、人権教育講演会の実施	A	○新型コロナウイルス感染症の影響で校外研修がオンライン等になったが、職員の積極的な参加があった。また、旭志解放保護者会との研修は感染状況を勘案しながら実施できた。 ○生徒人権集会や人権教育講演会は、年次を分けてオンラインで実施するなど、感染症対策を講じながら実施した。
	教育相談	教育相談活動の充実	○一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援体制の確立と強化 ○悩み相談体制の充実	○職員同士の情報共有体制の強化 ○保護者、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携 ○個別の教育支援計画・指導計画の策定 ○通級指導の実施	A	○生徒理解研修を２回実施した。 ○ＳＣによる面談を年間16回実施した。保護者との面談も実施した。 ○個別の支援計画・指導計画を作成し、ケース会議を実施した。 ○２、３年次生１名ずつに対して、通級指導を本格的に実施した。また、来年度の対象生徒の決定も行った。
	命を大切にする心を育む指導	自他を尊重する心と社会規範を遵守する生徒の育成	○「生命の大切さ」の指導の徹底 ○生徒の自発的・自立的な道徳的行為	○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切にする観点からの授業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発	B	○人権教育ＬＨＲを通して命を大切にする心の育成を行った ○県教委や文部科学省等から送られてきたポスター等を掲示した。 ○保護者向けの新型コロナウイルス感染症に関する連絡

			の涵養への取組			メールには人権に配慮について記載した。
いじめの防止等	安心安全な学校生活	いじめを生まない環境づくり	○いじめ防止対策へ向けた組織対策の確立 ○重大対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめ未然防止と早期発見 ○ＳＮＳ被害防止への取組	○いじめ防止対策委員会（３回）・小委員会（４回）の開催 ○家庭訪問及び定期的な個人面談の実施 ○いじめ実態把握調査の実施（年２回のアンケート実施） ○教育相談の活性化 ○外部専門家からの指導助言 ○生徒会、委員会による啓発活動 ○スクールサインを利用した早期発見 ○ＳＮＳ被害防止のための講演会や全校集会での啓発 ○保護者集会での啓発	Ｂ	○心のアンケートをもとに聞き取りを実施し、いじめ防止対策委員会で事実を情報共有した。委員会では全ての事案を取り上げ、今後の対策について意見を集約し、教育相談室と連携して解決に向けて取り組んだ。 ○支援会議に生徒指導部も参加し、生徒指導上の情報を共有するとともに、対策について広く意見を聞くことで早期対応ができた。 ○今年度はＳＣから意見を頂く他は外部からの指導助言を聞く機会が少なかったので機会の確保に取り組む。 ○スクールサインについては今年度使われている様子はなかったので、生徒会と啓発活動に取り組み、つらい気持ち等の発信方法を伝える。 ○ＳＮＳの利用については大きな課題であり、生徒会や保護者と連携した指導に取り組みたい。
保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	○健康観察の充実 ○感染症対策の実施 ○健康教育の充実 ○よりよい生活習慣の推進	○健康観察の結果を基に体調不良者の早期発見・対応 ○全職員による感染症の予防的対応 ○個別面談の実施 ○生徒保健委員会活動の活性化	Ａ	○オンラインによる健康観察により体調不良者の把握や対応がより早くなった。 ○CO2濃度測定器を導入することで換気状況を客観的に評価することができた。 ○感染防止の点から十分な時間はとれなかった。 ○翔陽祭のステージ部門で大賞を受賞するなど委員会の活動は活発であった。
		救急救命研修および感染症対策の実施	○救急救命蘇生法研修および感染症対策の計画と実施	○蘇生法、緊急時対応の動画視聴とフローチャートの確認と徹底および感染症対策の周知	Ａ	○本年度も実技研修会に代え全職員対象に動画を視聴してもらうことで、救急時における手順や方法について確認をした。

教育環境整備	安全管理	施設設備の安全管理	○安全点検の確実な実施 ○危険箇所への確実な対応 ○ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ等の啓発資料等の周知	○「安全点検週間」を設けることによる実施率の向上 ○点検結果の集約及び関係職員又は前職員への周知 ○防災避難訓練の徹底、校内の避難経路の作成と周知、登下校時の指定避難場所の周知	B	○評価後のアンケートをもとに再検討用の覚書を作成。 ○施設面における課題（危険箇所）については管理職に相談し、改善していく。
	学校版環境ＩＳＯの推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	○５Ｓ活動の充実 ○節電・節水（省エネ推進）３～１０％の削減 ○ゴミの減量化 可燃ゴミ重量昨年比、５％減少	○あらゆる場面での整理・整頓・清掃・清潔・躾の指導徹底 ○ゴミ分別の徹底 ○ゴミ持ち帰り活動の啓発 ○環境美化コンクールの実施 ○「節電・節水」の掲示物等の活用	B	○月に１度、５Ｓ活動の生徒への周知を美化委員会で取り組んだ。清掃に対する取り組みが課題。 ○ゴミの分別においては再度分別を周知する等、意識を高める必要がある。 ○ゴミの持ち帰り啓発についてはペットボトルや空き缶の持ち帰りの呼び掛けや捨てる場所の制限などに取り組んだ。今後も学校全体での取り組みが必要である。 ○環境美化コンクールは今年度実施できず、来年度実施に向けて準備する。 ○節電に関してはコロナ禍の中で窓を開放して冷暖房を使用したため使用量は増加したが、未使用の教室の電灯やエアコンを切ることなどを継続して指導した。
	教育の情報化	学校組織的としての教育情報化の推進	○学校情報化認定の取得 ○情報活用能力育成の教育課程上の位置づけ	○学校情報化認定の取得に向けた取り組みの周知 ○チェック項目の集計、および認定に向けた情報提供 ○情報教育検討チームを作成し、情報活用能力の横断的な育成に向けた取り組みの検討	A	○本年度の取組内容や実績を整理し、学校情報化認定の取得を申請中。 ○チーム結成に向けた人選にとどまったため、来年度は発足し、より活用を進められる体制を作る。 ○情報活用能力の育成を含めた、翔陽高校版ＧＩＧＡスクール推進全体計画を策定した。
		授業における効果的なＩＣＴの活用の推進	○全教職員のＩＣＴを活用した指導力の向上	○外部講師を活用した定期的な職員研修の実施 ○校内における活用方法の共有 （研修や広報の作成） ○各種講習会の紹介及び受講の促進	A	○ミニ研修会の形で、本校職員だけではなく、ＩＣＴ支援員からの研修会を実施して、職員のＩＣＴを活用した指導力の向上を図った。 ○Classroomや朝会などで、講習会などの案内を行い、情報をタイムリーに周知するとともに、Chromebookを教職員の普段使いのツールとして活用した。

		ＩＣＴ機器等の適正な管理と利用促進	○安心してＩＣＴを活用できる環境の整備	○ＩＣＴ機器の管理状況の把握 ○講義室等の常備されている機器管理 ○ＩＣＴ機器の活用研修の実施	Ｂ	○機器の管理、把握は完了。日常的なチェックにより適正管理を行っている。 ○機器の活用研修は、週２回程度のミニ研修会を実施しＧＩＧＡスクールにおける教職員の指導力の底上げのための取組を行った。 ○今後も機器管理を組織的に行うため、一括で管理できる部屋の整備を検討する。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校行事を通した連携	学校行事等の開放と交流	○同窓会との連携	○学校支援、登校指導、後輩への激励 ○海外学習の支援 ○翔陽祭での物品販売	Ｂ	○新型コロナウイルス感染症の影響で活動は限定的にならざるを得なかった。 ○感染拡大防止のため、役員会のみを実施。全国大会・総体・総文・海外研修等に奨学金支援を行った。
			○地域住民との連携	○地域花壇の管理 ○福祉施設との交流	Ａ	○正門通りの道路には例年どおり花の管理ができた。
			○近隣の小学校・中学校・大津支援学校との交流及び共同学習	○農作業体験学習 ○共同学習　等	Ｂ	○新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、小学校のみの交流となった。播種のみ実施し、交流しながらの収穫はできなった。
	保護者との連携	学校理解の推進	○育友会との連携 ○育友会総会等の出席率向上 ○保護者への連絡の徹底 ○保護者との情報共有	○一人一役活動（育友会レクレーション開催、翔陽祭バザー、長距離走大会豚汁支援、登校指導、校外補導等）の促進 ○学校支援、海外学習の支援 ○ＰＴＡ総会、公開授業週間を活用した学校教育活動の理解促進 ○学校あんしんメールの活用促進 ○ＰＴＡ会報の充実	Ｂ	○コロナ禍の影響で育友会総会が中止となり、全ての育友会活動が制限された。 ○保護者の意向を受け、育友会役員とも十分な協議を行い、生徒へ４点の物品を配付することができた。 ○必要に応じて、あんしんメールを活用して、保護者に情報を伝達することで、育友会との連携を円滑に進めることができた。
	地域との連携	連携体制の充実	○地域と連携した施策の実現	○学校運営協議会（総合型）への移行 ○地域関係機関や役場との定期的な意見交換 ○大津町企業連絡協議会との連携 ○地域と連携した教育活動の評価と点検	Ｂ	○学校運営協議会を総合型へ移行することができた。実施にあたっては分散実施や委員の個別訪問等、感染症対策を十分に講じた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で地域との交流は大幅に制限されたが、オンラインや分散等、工夫しながら実施した。

４　学校関係者評価
・様々な取り組みがなされている。これからも継続してほしい。 ・行政機関の施策の中で学校と協力してやれることがあるように思う。もっと協力体制を構築して取り組みにつなげたい。 ・防災の分野では、近隣校とも連携した取り組みを進めていきたい。 ・小学校の学び直しの取組みにおいて、翔陽高校の生徒にボランティアで参加してもらうなど、近隣の学校ならではの取組んでもらえると大変ありがたい。 ・翔陽高校の探究の学びにおいて、技術的障壁にぶつかった場合（たとえばＩｏＴ等）は、本校学生による支援や教職員同士の交流が行えると良い。 ・近隣自治体への大手外資企業の進出により、今後の就職の在り方も変わってくると思う。今後学校と地域企業の連携を深化させるなどして、地元のことを知ってもらうとともに地元定着に企業側からも取り組みたい。

５　総合評価
（１）学校教育目標 「自ら気づき、考え、行動する」の教育スローガンを生徒が実現できるよう、あらゆる教育活動において企画し、併せて生徒への呼びかけを行ってきた。その成果として、コロナ禍において生徒が自ら考えて感染防止に向けて行動する姿や、実現はできなかったもののキャリア教育発表会に向けた生徒の探究的な学びの姿など多くの成果が見られた。 また、コロナ禍のため台湾への修学旅行は実施できなかったが、オンラインでのマレーシアやミャンマーの若者と本校生徒の異文化交流会を実施し、コロナ禍後における更なる交流の在り方について検討することができた。 （２）重　点　目　標 令和４年度からの新学習指導要領の完全実施に向けて、令和２年度に作成した「カリキュラム・マネジメント全体計画」、「授業づくりの指針」に基づきながら一人一台のタブレットＰＣを利活用するなど、授業改善に全ての職員が取り組んだ。 また、臨時休業や分散登校にあっても、ＩＣＴを活用して生徒の学びを保障するとともに、ボランティア活動や対外的な活動においてテレビ会議システム等を活用するなど、学びや活動をできるだけ止めない工夫を講じた。 （３）自己評価総括表 本年度は、本校の目指す人材像についての設問を生徒・保護者・職員共通で設けるなどの評価項目の再検討を行ったため、単純に昨年度との比較はできないものの、評価の平均値は生徒・保護者ともに昨年度に比べて微増（＋０．１ポイント）し、教職員は微減（－０．１ポイント）するなど、ほぼ昨年度同様の結果となった。 本年度の特徴としては、新設した育成したい生徒像に関する設問について、生徒・保護者からは高評価をいただいているのに対して、教職員からは低い評価であったことである。これについては、生徒の実情を把握しながら、一層の取組を検討していく。 また、生徒・保護者への設問で「本校に入学して（させて）良かったか」の問いに対しては、生徒が３．０、保護者が３．５と高い評価をいただいた。更に、保護者からは育友会や地域社会との連携に関する項目についても３．２と高評価をいただいている。生徒の主体性を促す指導への取り組みが進んできており、今後も夢の実現に向けて「自ら気づき、考え、行動する」ことができるような生徒の育成に向けて、地域の産官学とも連携し、更なる取組を進めていく。 評価が低い項目については、生徒は施設・設備の故障・破損への対応についての項目が２．７であった。本年度導入された教室のＩＣＴ環境等で授業中の不具合が発生したことも影響すると考えられるが、生徒が安全・安心に過ごせる学校づくりのため、学校全体で情報を共有しながら対応していく。 保護者においては、家庭学習への取組とスクールカウンセラーの活用しやすさに関する設問が２．７と低かった。一人一台のタブレットＰＣ等も利活用しながら、御家庭とも連携したキャリア教育の視点に立って家庭学習の定着への取組を検討し、進めていく。 コロナ禍において、生徒たちも交友関係の構築をはじめとして多くの影響を受けている。スクールカウンセラーについては、従来の取組に加え、ＩＣＴ等も活用した一層の周知など、利用しやすい環境づくりに努める。

生徒・保護者からは本校には他の学校にない特徴があるかの項目について高い評価をいただいており、これは、地域社会からの高い期待の表れであり、入学者選抜の出願数にも反映されているものと考えている。今後も、地域社会と連携して、生徒の夢の実現に向けた探究的な学びに向けて取り組んでいく。

６ 次年度への課題・改善方策

（１）昨年度に続き、本年度もコロナ禍の影響で多くの学校行事が影響を受け、縮小や延期を余儀なくされた。次年度はこの２年間で蓄積した知見を生かし、感染状況を勘案しながら生徒の学びや体験を最大限できるよう検討していく。

（２）本年度実施した、オンラインの職員朝会や朝会資料のペーパーレス化については職員の意見を聞きながら働き方改革や業務改善の視点を入れながら持続可能なものとするべくよりよいあり方を検討・実践する。

（３）生徒会や育友会の意見を取り入れながら校則の改訂を行った。今後も特に生徒の主体性を促すため、職員の共通認識のもと生徒が「自ら気づき、考え、行動する」生徒指導の実現に向けて、継続的な見直しを行っていく必要がある。

（４）コロナ禍の影響で、リモート授業を実施する機会が多かった。オンライン朝会の実施等で職員がＩＣＴの活用に慣れていたこともあり、技術的な面での大きな問題は起こらなかったが、生徒の学習態度の把握等、運用面で見えてきた課題もあり、次年度のコロナ対応やアフターコロナにおける学校のニューノーマルの実現に向け、他校との情報共有、検証、検討が必要である。

（５）一人一台のタブレット端末の導入及び日常的な利活用は、ＩＣＴ運営部によるミニ研修会等の取り組みにより円滑に行うことができたが、次年度以降も継続的な取り組みにすることが必要である。